

湘現会

「知ってることが増えると、知らないことが増える?!」

藤田千津 児童文学作家
日本児童文学者協会会員

1944年東京都に生まれる。鎌倉第一小学校に在学中に、お話の種をいっぱい拾いました。大人になって、子育てや地域の文庫で読み聞かせをするうちに、温めていた種が芽を出し、たくさんの童話が生まれました。今も書き続けています。

子ども向けの本は、実は大人にとっても、大きな指針であることをご存知でしょうか。



☆「知ってるが増えると、知らないが減る」の間違ひではないのか？
妙なタイトルだと思いでしょね。では、その辺から始めます。

1、思い通りにならなかつた「転勤族の子」だつた私。
転機は「本読み会のおばさん」から頂く。
文庫活動から得たもの。「語り」のむずかしさから童話創作へ。

2、主な作品の紹介。

「のんのんのあさがお」（女子パウロ会）1,2年生向き。

「おかあさんのサイン」（岩崎書店）1,2年生向き。

「ごめんねがいえなくて」（あかね書房）1,2年生向き。

「花ゲリラってしってる？」（あかね書房）1,2年生向き。

「一元電車できたほらちゃん」（文研出版）1,2年生向き。

「やさしさ色のユニホーム」（国土社）3,4年生向き。

「もうひとりの佐藤くん」（文研出版）3,4年生向き。

「どうしようどうしよう」（文研出版）1,2年生向き。

「がんばれっていわないで」（国土社）3,4年生向き。

「サポーターはサイボーグ」（文研出版）3,4年生向き。

「みててね、おじいちゃん」（文研出版）幼年絵本。

「チャンスの神さま」（文研出版）3,4年生向き。

「家出しちゃつた」（文研出版）1,2年生向き。 その他。

3、先輩作家（長崎源之助先生）から教えられたこと。心掛けている事。